

ゆる現象を只だ摸倣すると云ふならば。到底畫くこと能はざるものなることを能く悟るべし。瞬時の現象を描出する眞の價値は。其現象に先だち或は後れて起らんとする他の現象をも共に想見せしむる感じの如何にあるものにして。單に其時刻丈に見ゆるものゝ摸倣と云はゞ愚も亦甚し。寫眞にて充分なり。例へば競馬場に馬が疾走する姿を現はしたりとて未だ動作の感じを興へず。單に事實の寫眞に過ぎざるなり。期する處は疾風の如くに飛び行くと云ふ感じを人に興へざる可からず。(つゞく)

### 水彩畫の紙(その三)

紙は畫くべき畫題によつて質を代へねばならぬ。緻密な畫には面の密なるがよくガサ／＼した處には面の粗なるがよい。

空を細かい目の紙で畫き、地平線の處から下に粗い紙を繼いで野を畫いてある繪を見たが、是等はよく紙を利用したのである。

ケントといふ紙も花など畫くに用ひられるが、大判か中判に限る。小判はあまり滑らかで役に立たぬ、そして、ケントは表よりも裏の方の粗な方がよく、海綿で少しく強く磨けると畫きよい、檜の葉に空の反射がある柔らかない綠色などの感じは、ケント紙が一番よく出るやうである。

彩料店に水彩畫紙といふ小さな粗い目の紙がある、誰れがつけた名であるか知らぬが、あの紙は水彩畫には不適當である、繪具が伸びぬ、色は冴えるが洗ふことも出来ぬ、目の間に繪具が溜つてムラが出来る。懲りた人が澤山ある、まづ用ひぬ方がよいであらう。

木炭用紙を使ふ人がある、これも洗ふことが出来ず、輪廓が固くなる、一度繪具を着けると脹れて容易に乾かず、二度目の繪具をつけるのに困る。元々木炭用に出来た紙であるから、水彩に用ゐる方が無理である、この紙よりもB印畫學紙の方が遙かに増してある。